

はじめに

明治25年（1892）に発祥した創唱宗教大本教、その大本を実質的に創設した出口王仁三郎（1871～1948）は、宗教家、大預言者、超能力者、芸術家、歌人など多面的な側面を宿した桁外れの人物であった。

王仁三郎は、明治31年丹波穴太の高熊山の入山修行により霊界に出入りし、霊界をくまなく見聞して、宇宙構造の真相を知り尽くした。

王仁三郎は、私たちの世界は、霊界と地上世界の多次元構造となっており、地上現界は霊界の移写であるという。

この宇宙の森羅万象は、霊界の出来事が地上世界へ現象として写し出され、地上現界のことは、また霊界に写り、霊界のことはまた現界に写るといふように関連しつつ顕幽一体化して宇宙が運行しているとしている。

また王仁三郎は、日本は、世界の雛型であり、世界一切の小縮写であり、世界の霊域であり、

世界一切の中枢であると教示している。

したがって、霊界で生起した大事件が地上に顕現化する際は、世界一切の小縮写である日本に歴史的事件の変革力が凝集し縮写した事件として顕現化してくる。

この世界の雛型国日本は、過去に日本の国の形を決定づける歴史上の転換期が3度あった。

1度目の日本誕生は、7世紀に天武天皇が天皇中心の中央集権国家建設を推し進め、誕生させた律令国家としての古代天皇制国家。

2度目の建国は、19世紀に徳川幕藩体制が崩壊し、明治時代に入り、現人神天皇あらひとがみが国家権力の頂点に鎮座し、国家神道こっかしんどうを基盤とした宗教軍事国家・天皇制絶対主義の大日本帝国の誕生である。

3度目の建国は、20世紀の帝国主義時代に植民地争奪戦に巻き込まれ、大東亜戦に敗戦し、はいきんしゆう拝金宗国家米国の属国としての金権絶対主義国家の誕生であった。

そして、4度目の日本の誕生は、今後の地球的規模の大変動後に誕生する天立君主てんりつくんしゆによる祭政一致の神政国家である。

日本に起こった過去3度の歴史的変革は、霊的世界に視点を置いた多次元的な立体史観に立脚するならどのような意味を秘めていたのであろうか？

1回目の日本誕生である古代日本国の天皇制国家の建国は、皇祖神こうそしんアマテラス（真の太陽神

と似て非なる神)の誕生による主神の神格の封印とともに始まった。

古代最大の内乱であった壬申じんしんの乱を制した天武てんむ天皇は、天皇制国家の権力基盤を確立させるために歴史書の編纂へんさんを命じた。

天武は、それまでの皇祖神タカムスヒを捨て、既に日本に根付いていた日神信仰の太陽神アマテラスを皇祖神とし、皇祖神が国の統治を天皇に命じたとする天皇統治を支えるイデオロギ―神話(記紀神話)の基礎を作り上げていった。

古代天皇制の政治権力の基盤は、真の太陽神の神格を武力と政治力により略奪し、天皇家の祭祀を、国家の最高神の祭祀として位置づけ、皇室神道として制度化し、諸氏族の神々を、国家権力により序列化していった。

その後、古代天皇制の政治的実権は、摂政時代の藤原氏、鎌倉時代の源氏と北条氏、室町時代の足利氏、江戸時代の徳川氏の武家政権によって奪われた。

2回目の日本誕生では、天皇は大日本帝国憲法により、国家を統治する最高権力者・陸空海軍を統括する大元帥・国の最高祭祀を執行する国家神道おおかんぬしの大神主おおかんぬしであり、しかも生きながらの神(現人神)となった。

明治政府は、日本の全神社に祭られた神々の神格を略奪し、天皇家の祖先神とされた天照あまてらす大神おほみかみを祀る伊勢神宮を頂点として、全国の神社を格付け再統合し、日本の神々の神格を封印

した。

世界の靈域日本に、鎮座すべき神は、天地宇宙創造の主神である。

しかし、日本に鎮座したのは、宇宙主神ではなく明治政府が担ぎ上げた現人神であった。

日本の神々の神格は、地球創造神の国常立尊くにとこたちのみことに神縁深き孝明天皇こうめいの死を機に、王政復古を果たした明治維新期の日本支配者層に本格的に根こそぎ略奪された。

3回目の日本誕生では、米国による人類初の無差別大量殺戮兵器・原爆の投下により、大日本帝国は崩壊し、天皇主権の天皇制絶対主義国家から民主主権の民主主義国家へと移行した。宇宙主神への信仰基盤は、日米戦の敗戦によって回復し、地上世界において主神復権の準備は完成した。

社よつはとも

即ち、世界の靈域の中枢に主神が鎮座し、活動する準備基盤が完成したのである。

4回目の神政国家は、地球神界を主宰する地球創造神の国祖国常立尊が神界の主宰神として復権し、宇宙主神への信仰が確立されることにより完成する。

神政国家は、国祖の神格を摂受し神人合一して神政を司る天立君主により統治されることとなる。

これまでの人類の歴史は、世界的な規模で展開されるどのような歴史上の大変動であっても、同一次元の時空内で起こった歴史展開である。

しかし、今後起こる最終段階での4回目の日本誕生は、宇宙規模の大変動による時空の変化による人類史の断絶と刷新された新生地球上に誕生することとなる。

この宇宙大変動期に人類は一斉に仮死状態となり、臨死体験により霊界を覚知し、霊界との交通を回復して自己変容を遂げ、霊的成長の大道を歩むことになる。

本書は、①2回目の日本誕生期に登場し、攘夷主義を掲げ、幕府・雄藩との政治闘争の嵐を生き抜いた孝明天皇と玉鉾神社たまぼこ（祭神孝明天皇）を建立した旭形亀太郎あさひがたかめたろうの生涯、②孝明天皇と大本教の不可思議な神縁の絡み合い、③地球規模の大変動期を乗り越え、「みろくの世」と称される理想世界を建設するため実施された、大本神業外伝史としての「大本裏の神業」、④今後人類が体験する臨死体験の実相等をたどり、長大な時間軸に視点を据えた「新時代の大潮流」の一断面を垣間見かいまみることを最終主題としたものである。

読者は、本書を読み進める中、神の経綸けいりんとしての「大本裏の神業」とは、実に荒唐無稽こうとうむけいなパラノイア的所業に満ちあふれた世界そのものであるとの印象を持つであろう。

しかし、神業の主導権は、地上現界とは全く異なる次元法則に支配された霊界の神にある。地上現界の人間が、霊界と地上の相応関係にある出来事を、地上側の物理法則に準拠して活動するなら神話世界の象徴的・暗示的な雛型としての活動（神劇）となるのである。

今後訪れる宇宙的大変動は、王仁三郎が、「この度の世の改めは万世にただ一度の経綸けいりんなり

けり」と詠ったように、人類史に未だかつてなかった「末代に一度」の根本的な改革である。

この大改革の原動力は、人類の頭脳が生み出す想定域をはるかに超越し、宇宙万有を無限絶対、無始無終に創造する宇宙の大元霊たる神である。

既存の価値体系や常識的思考法に囚われずに、約138億年をかけて超極微の素粒子から膨大な銀河宇宙に至るこの大宇宙を創造し、霊界・現界を統御している気宇壮大な宇宙意志の視点から本書を読み進めていただきたい。

はじめに――1

社よつはとも

第1部 祭司王孝明天皇と旭形亀太郎の運命的な出会いから始まった！

第1章 孝明天皇の生涯……攘夷主義に命をかけた幕末の天皇 17

迫り来る列強の開国要求……アジア植民地化の嵐の中で皇位を継いだ若き天皇――17

鎖国攘夷の憤怒の天皇……列強との修好通商条約締結を拒否――18

違勅調印に激昂する孝明天皇……『戊午ぼごの密勅』――21

高まる攘夷運動と安政の大獄……テロリズムが吹き荒ぶ尊王攘夷運動――22

台頭する雄藩勢力……幕政改革による公武合体派の薩摩と尊王攘夷派の長州――24

尊王攘夷運動の挫折と倒幕運動……挫折する天皇の攘夷主義	— 27
天皇の幕府大政一任を批判する公家の造反……策士岩倉具視の王政復古	— 31
孝明天皇の謎の死……絶えることなき毒殺説	— 35

第2章 祭祀王孝明天皇……日本の神仏を総動員 42

孝明天皇の攘夷論……記紀神話の神国思想を引き継ぐ皇統意識	— 43
朝廷における異界との交流……祭祀王としての天皇の世界	— 47
孝明天皇の神仏祈願……自ら食膳を断って祈願する天皇	— 52
神仏祈願に身命をかける孝明天皇……深い神仏への畏敬	— 55
神示に身を託す孝明天皇……孝明天皇と黒住教	— 58
孝明天皇と「切紙神示」……王仁三郎も修した「切紙神示」	— 62
『たまほこのひ可里』……佐藤老人の語り継ぐ「切紙神示」の逸話	— 65
佐藤紋次郎と旭形亀太郎との出会い……旭形より伝授された「切紙神示」	— 67
孝明天皇が旭形に伝授した「切紙神示」……朝廷の神国の秘法	— 69
孝明天皇と国祖国常立尊……神界クーデターにより隠退せられた神	— 71

第3章 『たまほこのひ可里』の真相……孝明天皇の宸筆の信憑性 77

佐藤老人の人物像……刑事の恫喝に屈して天皇の宸筆を焼却する——77

佐藤老人は字が読めなかった？……吾れは無学文盲の事として記憶を撰録する事も得ず——81

王仁三郎と佐藤紋次郎の会見……狂いたる人にやあらん——83

佐藤老人の告げる孝明天皇の経綸書……浮上する宸筆内容の疑惑——87

第4章 旭形亀太郎伝……孝明天皇が最も信頼した若き勤皇隊長 91

勤皇力士隊長旭形亀太郎……長州藩の密偵として京都に旅立った旭形——91

蛤御門の変で比類なき活躍をする旭形亀太郎……天皇旗を託される旭形——94

孝明天皇の急死に驚愕する旭形……「誠に意外千万」——100

政治の裏舞台から相撲の世界へ戻る……新政府からの栄典授与を辞退する旭形——104

玉鉾神社創建に心血を注ぐ……難航する神社の創建——107

孝明天皇と八幡神……人類救済の神仏八幡大菩薩——113

玉鉾神社の神官となった旭形……孝明天皇に生涯を捧げる赤心の力士——115

孝明天皇の遺勅……三種の神器による靈的国防の真実——117

第5章 玉鉾神社と大本の奇しびなる神縁

126

旭形亀太郎と大本開祖出口なおの出会い……孝明天皇の神号を授ける大本開祖——126
旭形没後の玉鉾神社……大本裏の神業に従事する旭形家——132

社 第2部 三雲龍三が取り次いだ『龍宮神示』から宇宙大変動の謎に迫る

第6章 宇宙を理想発展創造させる国祖神話の外伝

137

人類の靈的進化を伝える『龍宮神示』……第二の天地創造——137
五大世界の立替え立直し……宇宙は五重構造の多次元世界——140

地極界の立替え立直し……国祖の敷いた自然淘汰の則——142

地獄界の立替え立直し……地極の世界から放たれる逆写の神法——144

紫微天界・神靈界の立替え立直し……光明化する神靈界と地上現界——146

第7章 新地球を創世する五づ男神・三女の神

149

混沌界と化した地上世界……迫り来るナオの三災——149

地上世界の立替え立直し……五づ男神と三女の神の結び合い——151

宇宙律の転位と御霊の入れ替え……人類一斉の臨死体験——152

国常立神と天常立神の玉結び……新生宇宙の霊と体の玉結び——154

神垣はらい……五大世界は消失し、宇宙構造は天と地の二大世界へ変位した——156

宇宙大浄化……臨死体験を経て覚醒する本霊——158

第8章 竹生島救舟流神業……神一厘の仕組 164

琵琶湖上における竹生島救舟流神業……大峠を越える救いの箱船——164

暗闇の琵琶湖の湖上に放たれる救いの箱舟……天地大変動を乗り切る救世の舟——171

竹生島救舟流神業の霊的位相……龍宮神示の示唆する五づ男神と三女の神の結び——174

孝明天皇の御神号「たまほこノ神」の真偽……裏の神業に登場する『玉鉾瑞穂神』——176

第3部 宇宙的大改革へと導く大本裏の神業の真実が明らかになる！

第9章 『大本神諭』の世界……地球創世神からのメッセー
ジ

183

悪の世・獣の世の崩壊……産業革命により加速した近代の「悪の世」・「獣の世」—— 183

日本に出現した預言者出口なお……断食・水行・不眠不休の神との交流—— 187

地上唯一の大預言者……出口なおの「アジナ・チャクラ」の覚醒—— 191

大いなる神からのメッセー……「末代に一度」の大望な世の立替え—— 196

巨大な宇宙活動力による根本の世の立替え……神力なしでは成就しない宇宙的大改革—— 198

地球規模の大変動時に何が起こるのか……天地のビックリ箱が開く—— 200

人類の文明の崩壊と再生……宇宙意志の神力発動による世界の立替え—— 202

大本裏の神業が告げる神一厘の仕組……『神言書』が示す宇宙大変動—— 208

第10章 救世の確約……弥勒の世の到来を確約した大本裏の神業

215

迫り来る宇宙大変動……一分一厘違わん神の経緯—— 215

王仁三郎の『神諭我観』……「世の大峠」は譬えごとなのか？—— 217

救世の大本裏の神業……弥勒文明への雛型神業—— 224

霊界の諸情勢……地球神界の主宰神・国祖の隠退と素盞鳴尊の活動—— 229

国祖国常立尊と天祖みろく大神……二大神系による救世神業——232

第11章 「大本裏の神業」の孤高の人……伊勢のカンノシ辻天水 236

天水翁の生涯……北伊勢に眠る孤高の神業者——236

大本裏の神業の神書……「錦の宮」に秘蔵された神書群——240

第12章 新しき世の魁の神仕組……救世の神仕組 243

天水翁の救世神業……因縁の身魂が織りなす救世の雛型神業——243

琵琶湖真奈井の仕組……救世神業に従事する五男神・三女神の生誕——248

新しき世の魁の神仕組……比良・真名井・御在所深き仕組なり——250

御在所の仕組……武智時三郎・岡本天明の「至恩郷」——254

第13章 『淡路元井戸』仕組……『淡路元井戸』を主点として展開された裏の神業 264

大本表と裏の国祖復権神劇……舞鶴沖の沓島・冠島と淡路島——264

『淡路元井戸』は裏の神業の発信地……大国常立大神の出御と『組玉』の形成——267

『淡路元井戸』の神業……活性化する全国の神業地と因縁の身魂——270

ともはつよし社

校正 妻秋アートセンター

本文仮名書体 文麗仮名(キャンパス)